

No. 16 『外来種の影響と被害と対策』

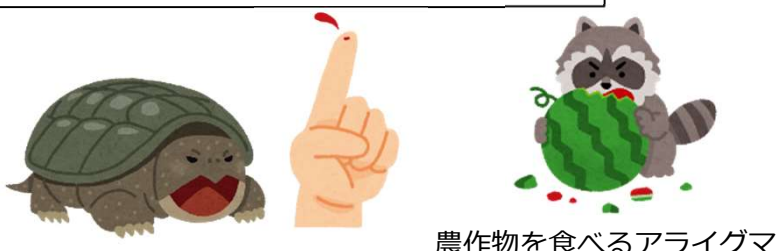
外来種とは、もともとその地域にいなかったのに、人為的に他の地域から入ってきた生物のことを指します。

外来種が生態系に与える影響

在来種を食べてしまう「捕食」や、似た生活を送っている在来種とエサや住処の奪い合いをして、生息地を減らしてしまうことになる「競争」、近縁の在来種との間で雑種を作る「交雑」など、さまざまな影響があります。他にも、病気や寄生虫を持ち込んでくる可能性もあります。

在来種が絶滅する可能性もあります。

農林水産業や人、生態系への被害



カミツキガメによって怪我をする

小笠原諸島に生息している固有種であるセミがグリーンアノールに捕食され、数が激減している。

農作物を食べるアライグマ



アライグマの被害

アライグマが分布している地域は、関東、東海、近畿で確認されています。アライグマは家にある隙間から入り込み、屋根裏などを住処として生活するので、糞尿の被害が顕著に出ています。



健康被害



住宅劣化



騒音被害



R2年
被害額
1億4200万円

Pickup !

年々増加中

https://kujo-plus.com/gaiju/araiguma/distribution-and-damage-situation/#outline_1_2より引用

対策

<https://gairaisyu.metro.tokyo.lg.jp/index.html>より引用

飼っている生き物が野外に放たれたとき、生態系等にどのような影響を及ぼすか、予想をすることはできません。動物も植物も、決して捨てず、最期まで大切に飼いましょう。環境省は外来生物被害予防三原則を推奨しています。



入れない！



捨てない！



拡げない！

まとめ

外来種の被害と影響は、私たちの身の回りで起きていることが多いです。被害と影響を少なくするには、少しでも対策していくことが大切です。